

学校部活動の課題・改革の必要性

① 少子化の進展

少子化により、学校の規模が小さくなる中、1つの学校単位ではチームスポーツなどが十分に実施できない

② 学校における働き方改革

学校における働き方改革の必要性が高まる中、学校の教師のみに頼る指導体制は維持できない

(参考1) 中学生世代の人口推計 2023年：約322万人 ⇒ 2033年：約259万人

(参考2) 中学校教師の時間外在校等時間 R4：約58時間 ⇒ 目標(R11)：約30時間

(参考3) 学校部活動の意義

- ・ 生徒が、身近に、気軽に、安全・安心な環境の下で、スポーツ・文化芸術活動を行う機会を公的に保障
- ・ 生徒の体力向上、責任感・連帯感・リーダーシップの育成、好ましい人間関係の構築などに寄与 など

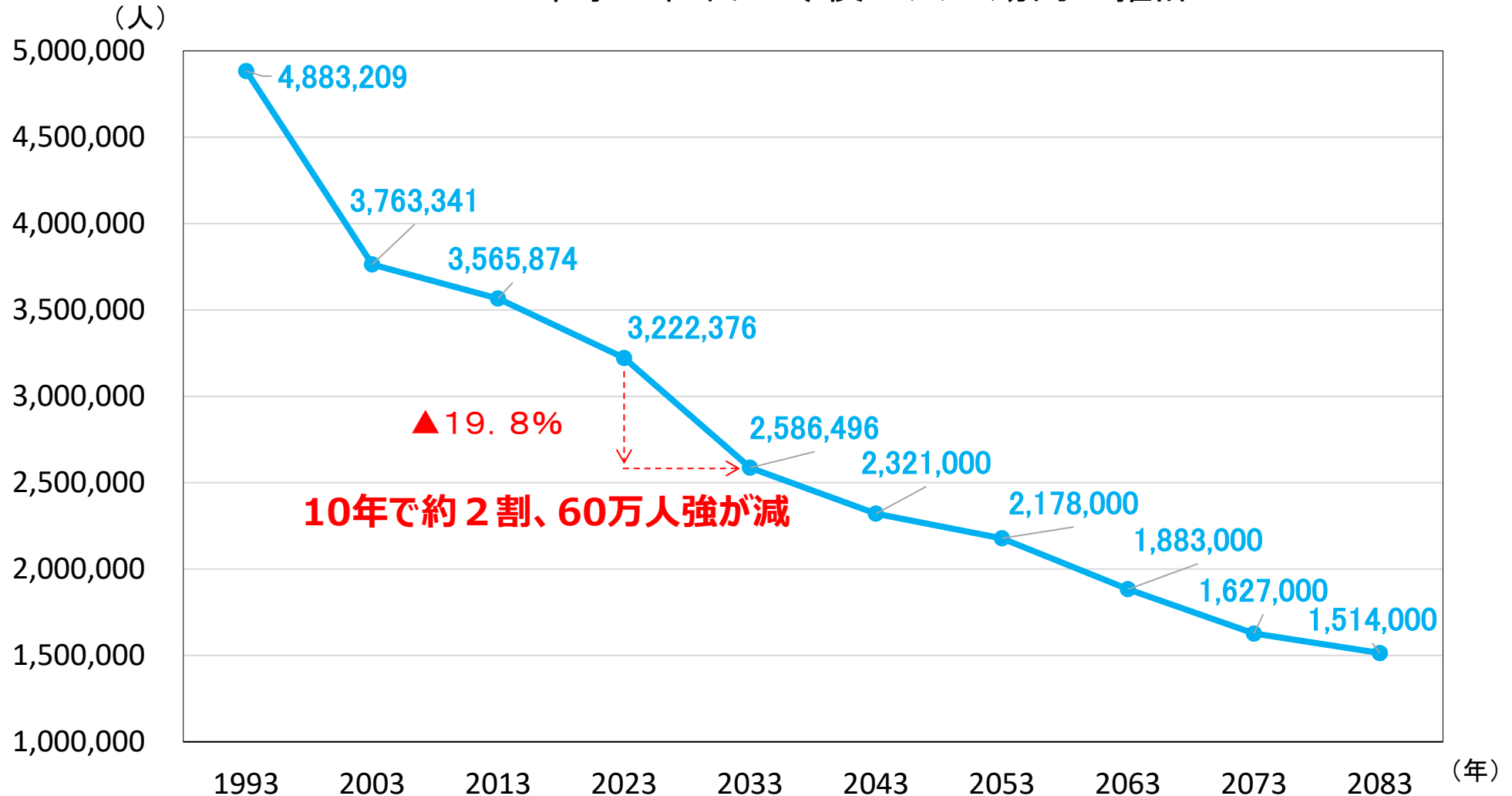
● 少子化が進む中でも、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するために、地域のスポーツ・文化資源を最大限活用し、地域全体で支える仕組みの構築が必要

● これにより、生徒の活動機会の維持にとどまらず、多種多様な体験の実現や、良質な指導等を通じた活動の質向上、地域社会の維持・活性化等につながることも期待

【関連データ】 少子化の進展（中学生世代の人口の急激な減少）

- 学校数の減少、それ以上に進む少子化で生徒数／学校はさらに小さくなる中、部活動は持続困難。

中学生世代の今後の人口動向の推計

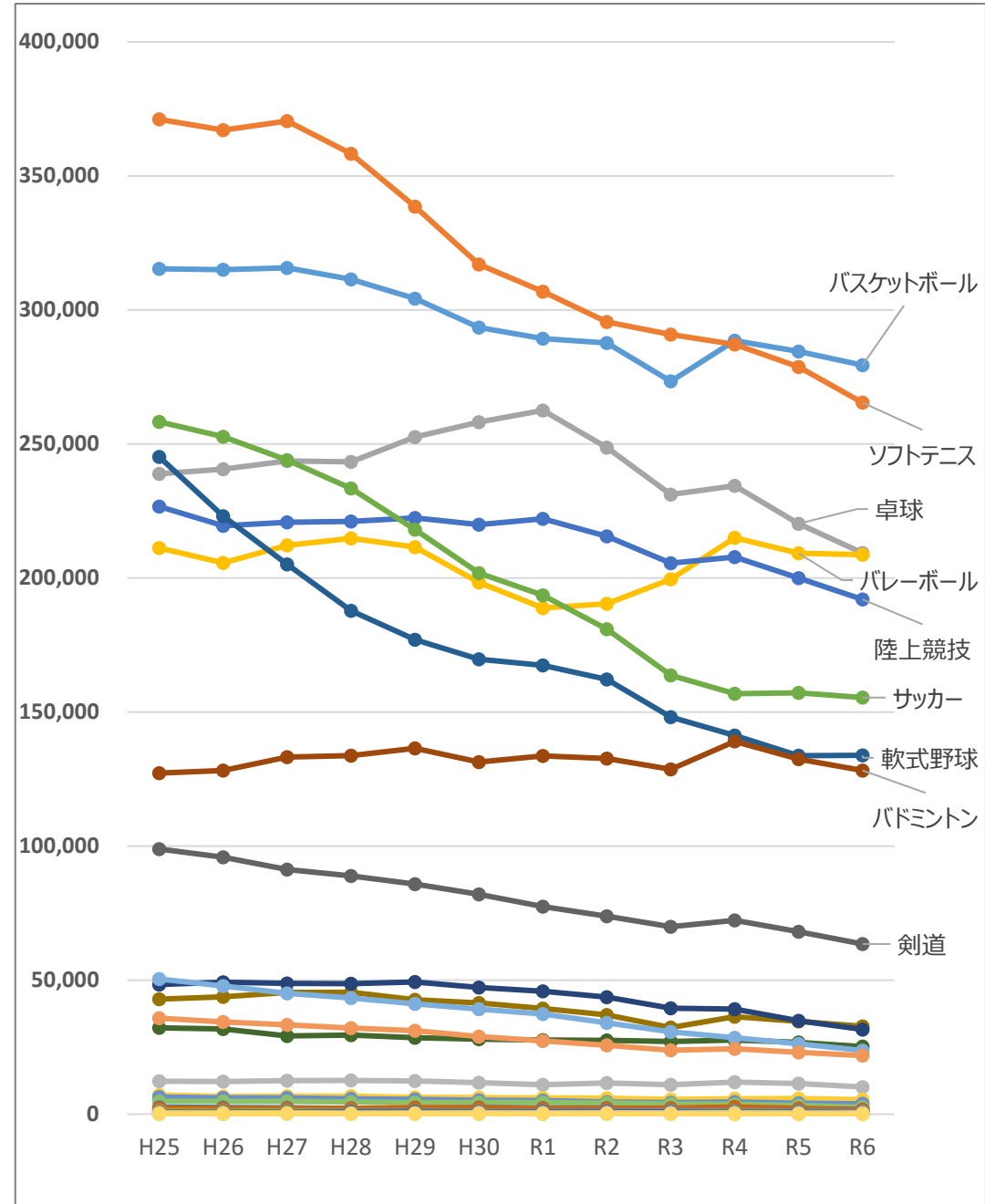


中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数

厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2023年4月）により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（令和5年推計）詳細結果表」の「1. 出生中位（死亡中位）推計」を基に算出。

【関連データ】運動部活動に参加している中学生数の推移

競技	H25	R6	H25との比較	
			増減率	増減
バスケットボール	315,354	279,373	-11.41%	-35,981
ソフトテニス	371,121	265,448	-28.47%	-105,673
卓球	238,854	209,365	-12.35%	-29,489
バレーボール	211,259	208,675	-1.22%	-2,584
陸上競技	226,692	192,024	-15.29%	-34,668
サッカー	258,291	155,415	-39.83%	-102,876
軟式野球	245,219	133,854	-45.41%	-111,365
バドミントン	127,239	128,243	0.79%	1,004
剣道	98,913	63,481	-35.82%	-35,432
テニス	42,883	32,812	-23.48%	-10,071
水泳競技	48,358	31,619	-34.61%	-16,739
ハンドボール	32,205	25,209	-21.72%	-6,996
ソフトボール	50,418	23,768	-52.86%	-26,650
柔道	35,809	21,846	-38.99%	-13,963
弓道	12,269	10,154	-17.24%	-2,115
ラグビー	7,152	5,405	-24.43%	-1,747
体操競技	6,387	3,860	-39.56%	-2,527
新体操	4,825	2,598	-46.16%	-2,227
スキー	2,641	1,734	-34.34%	-907
空手	2,315	1,674	-27.69%	-641
ホッケー	1,545	1,231	-20.32%	-314
相撲	1,343	720	-46.39%	-623
なぎなた	834	580	-30.46%	-254
アーチェリー	763	575	-24.64%	-188
スケート	550	407	-26.00%	-143
アイスホッケー	500	403	-19.40%	-97
レスリング	96	215	123.96%	119
フィギュア	51	11	-78.43%	-40
合計	2,343,886	1,800,699	-23.17%	-543,187



(出典) 日本中学校体育連盟の調査を基にスポーツ庁において作成

【関連データ】中学校における合同部活動実施チーム数の推移

競技	H25	R6	H25との比較	
			増減率	増減
軟式野球	154	1237	703.2%	1,083
サッカー	55	699	1170.9%	644
バレーボール	177	405	128.8%	228
バスケットボール	47	348	640.4%	301
ソフトボール	61	268	339.3%	207
ハンドボール	10	41	310.0%	31
ラグビー	32	28	-12.5%	-4
柔道	6	12	100.0%	6
剣道	7	10	42.9%	3
アイスホッケー	14	10	-28.6%	-4
卓球	9	9	0.0%	0
ソフトテニス	3	7	133.3%	4
ホッケー	5	6	20.0%	1
バドミントン	5	5	0.0%	0
陸上競技	5	4	-20.0%	-1
水泳競技	0	3	—	3
スケート	0	1	—	1
体操競技	5	0	-100.0%	-5
新体操	0	0	—	0
相撲	0	0	—	0
スキー	0	0	—	0
空手	0	0	—	0
合計	595	3,093	419.8%	2,498

(出典) 日本中学校体育連盟の調査を基にスポーツ庁において作成

